

Get Heart

ここから始まる

COMMUNICATION MAGAZINE

特集

No.40
2008.4

平成20年度日野川水防演習
が行われます。
〔米子市〕

突撃レポート

大人たちの社会見学ツアー
に参加して

日野川の歴史

日野川流域の古城

米子市歴史館運営委員長 杉本良巳さん

日野川流域もの知り手帳

もの知りさんに聞いてみよう

日野川堰（ひのがわぜき）

近代土木遺産をたずねて

日野川流域の近代土木遺産①

「日野橋」

特集

洪水から守ろうみんなの地域

伯耆の国 みんなで高める 防災意識

平成7年以降、13年ぶりに日野川で、水防演習が実施されます。

日野川水防演習では、日野川流域において洪水等の水災害が発生するという想定のもとに、中国地方整備局、鳥取県、鳥取県西部圏域の9市町村および地域住民が連携し、情報伝達訓練、水防工法訓練等を実施するほか、警察、消防、自衛隊等が連携し、緊急物資輸送、人命救助・救護等の特別訓練を行います。

会場には、水防に関する資料や特殊車両などの展示、家庭で出来る簡単な水防や応急救護の講習など、誰でも参加できるコーナーもありますので、皆さまぜひご参加ください。(詳しくは、国土交通省日野川河川事務所HPをご覧ください。

<http://www.cgr.mlit.go.jp/hinogawa/>

日野川水防演習3つの柱

住民参加

住民が見学しやすい会場レイアウト
参加できる・体験できる水防演習



水防技術の向上

地域特性を考慮した水防工法訓練
中国地方で初めての「水防工法競技会」の開催



住民・地域・防災機関の連携

住民・企業、ボランティアが参加する演習 消防・警察等が連携した人命救助・救護訓練



日時:平成20年5月18日(日) 9時~12時30分

場所:米子市古豊千地先 日野川河川敷(山陰道米子大橋上流東側)

主催:国土交通省、鳥取県米子市、境港市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町

「平成20年度
日野川水防演習」
が行われます。

「大人たちの社会見学ツアー」に参加して

米子市水道局

今回は米子市観光協会さんが企画された、「大人たちの社会見学ツアー」に参加してきました。

場所は米子市車尾にある米子市水道局です。

ふだん私たちは何気なく利用している水道水ですが、現在のように安定した水の供給がなされるまでには、いろいろな苦勞の歴史や、それを維持管理していくための設備にたずさわられる人たちの努力があり利用できているのだという事をあらためて感じる事が出来たのではないかと思います。



調整池

水道局の中でひととき大きく目立つのがこの施設。容量は5,000m³あり学校にある25mプールで約11杯分もあるそうです。

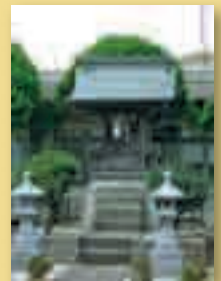


創設記念碑

米子市の水道は、大正13年6月に米子町が国の認可を受け、同年9月に起工し、大正15年4月から給水を開始しました。当時を偲ばせるものとして、創設記念碑があります。

水神社

水道記念館の横にひっそりとたたずんでいます。



取水井

深井戸2号と言われるこの施設では深さ85mから汲み上げられた原水を試飲することができます。



米子市水道記念館

水道創設時に中央ポンプ室として建てられ、外観は白い壁に赤瓦で、一部にアーチの窓があるロマネスク風のモダンな建築です。平成10年には、鳥取県の建物100選に選ばれました。また、平成13年8月には、隣接する創設記念碑・水神社とともに国の文化財に登録されました。



ポンプ室

3機のポンプが常に稼働しているポンプ室。

奥には停電時などに備えてディーゼルエンジンで稼働するポンプもありました。



「米子の水はきれいだ」とか「米子の水はうまい」とか、よく耳にしますが、これからもずっとそうだという保障はどこにもありません。先人たちの想いを引き継ぎ、きれいな水を供給しようとしておられる方々が私たちには普段は見えないところで努力しておられるのだという事を見て、その供給源である日野川や自然を守ることの大切さを感じた見学ツアーでした。

このツアーに関してのお問い合わせは
米子市観光協会 TEL0859-37-2311

第5回

日野川流域の古城

日野川流域には数多くの古城跡が見られる。築城の時期は応仁の乱以降戦国時代にかけてであるが、この地方が出雲の国境に近く、軍事境界地域として武将の抗争が絶えなかったからである。加えて日野川上流地域が良質の山砂鉄を産出し、たたら製鉄の中心地であったため、その争奪をめぐる戦い、さらに日野川筋が山陰と山陽を結ぶ重要な交通路であったからである。

日野川流域の古城跡を町別に見ると、次のようである。

①米子市		11
②南部町	会見町	11
	西伯町	9
③伯耆町	岸本町	3
	溝口町	13
④江府町		10
⑤日野町		23
⑥日南町		39
計		119

『県中世城館分布調査報告書』

ところで日野川流域の古城の特色としてあげられることは、

①山頂または山根を削って平地を作り、ここを郭とする。

②切岸や堀切が見られる。

切岸は自然の斜面を険しく急傾したものであり、堀切は尾根の鞍部をさらに掘り窪めたものである。

③土塁や石塁はほとんど見られない。

中世の古城跡は、自然地形を大幅に変更せず、どちらかといえば人の手をあまり加えない自然に近い形だと云い得る。

そうした中であって、河川を防禦線として、また物資の輸送路として利用した幾つかの城がある。江美城、黒坂城、法勝寺城、さらには日野川が転流する以前の尾高城などはその代表的な城であろう。

江尾は日野郡の咽喉部に位置して、奥日野や山陽と山陰海岸部、さらには大山寺と結ぶ交通の要



日野川と黒坂陣屋の図

地である。ここに築かれた江美城は日野郡内で、最も重要であり規模も大きなものであった。

江美城は東から日野川に迫り出した比高約80mの舌状台地にあり、台地端を切り割って本丸がある。城の北側には東に向かって走る道があり、大山へ通じていて、これが城下の主要道でこの道をはさんで城下町があったといわれる。それと十字に交わる南北の道は南へ行けば日野川に添って奥日野へ、北へ行けば西伯へ出られる。

本丸の南に本丸とほぼ同じ高さで、大きさも同じ位の兔丸があり、南谷川の谷を隔てて本丸と並んでいる。その南麓を俣野へ通う道が通っていて作州へ向かっている。

本丸の北に離れて銀杏の段というのがあり、この段の南の切岸を舟谷川(江尾川)が流れ北の切岸には小江尾川が流れている。両川を堀とすれば本丸よりも堅固である。こうした複合的な城構えが江美城のもつ守りのかたさであったが、永禄8年(1565)尼子方の城主蜂塚右衛門尉は杉原盛重に攻められて滅んだ。

こうした古城の在り方は河川を防禦線と頼む黒坂城でも法勝寺城においても見られる。

法勝寺城は中谷川と東谷川が合流する地点の比高10mばかりの低丘陵上にあって、やはり川に添って奥日野、さらには山陽と結ぶ主要街道に望んでいる。中谷川に添って南へ延びる道は日野郡の多里を経て三次、広島に至る備後道であり、東谷川を東に向かう道は山陽側と出雲の富田城を結ぶ富田街道であった。

日野川流域に分布する古城にとって、日野川のもつ意味は戦時には防禦のかなめであり、平時においては物資の輸送路であってその存在は大きなものであった。

日野川流域 もの知り手帳

日野川堰 (ひのがわぜき)

もの知りさんに聞いてみよう

堰とは、水をせき止めることにより水位を上げ、水を取水出来るようにしたものです。日野川堰はゴム製で、農業用水や旧加茂川の浄化用水を目的として作られました。

普段は、風船のように中に空気を入れてふくらませて水を堰き止め、大雨などによる洪水時には空気をぬいて潰し水を流す仕組みになっています。この仕組みを可動堰といいます。この仕組みによって洪水時には安全に水を流し、農業用水の安定した供給や旧加茂川への浄化用水の確保など多目的に利用されています。

日野川堰の変遷

旧日野川堰は、昭和8年に竣工したインド型と呼ばれるコンクリート製の固定堰で、60年にわたり農業用水である米川用水の取水堰として機能を果たしてきましたが、洪水の流下能力が不足していることや年数が経過していることにより、現在のゴム引布製起伏堰に改築されました。



●空気が入った状態で水をせき止めます



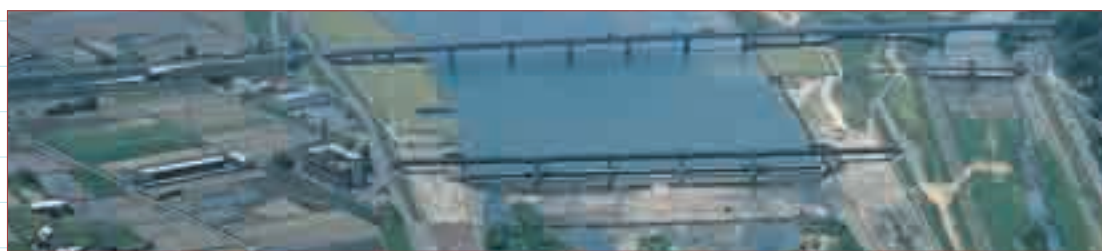
●空気を抜いて水を流します



●堰の大きさは、このくらい



●制御室



●山陰道(国道9号米子バイパス)日野川東I.Cの西側、米子大橋の下流に位置しています



水辺のオッチング

【表紙写真紹介】

“清流”

水辺に白い花が咲き心が洗われる気持ちになりました。

- 第10回 日野川フォトコンテスト入賞作品
一般Aの部 銅賞 大森 博さん
- 撮影場所：江府町下蚊屋

日吉津村

第30回日吉津村チューリップ
マラソン記念大会平成20年4月13日(日)
午前8時30分～9時30分 受付
午前10時30分 スタート●問い合わせ先/日吉津村チューリップマラソン大会事務局
TEL 0859-27-0606スペシャルゲスト
千葉真子さん

日吉津村

第17回24時間リレーマラソン
inHIEZU平成20年5月10日(土)～11日(日)
●問い合わせ先/TEL&FAX(0859)45-2560

南部町

南部町さくらまつり

平成20年4月1日(火)～15日(火)
●問い合わせ先/南部町産業課内観光協会 TEL 0859-64-3783

南部町

「一式飾」

平成20年4月12日(土)～13日(日)
午前9時～午後9時
●問い合わせ先/南部町産業課内観光協会 TEL 0859-64-3783

米子市

米子桜まつり

平成20年4月4日(金)～4月13日(日)
桜の開花状況によって期間の変更あり
●問い合わせ先/米子市観光協会 TEL 0859-37-2311

米子市

米子つつじまつり

平成20年4月26日(土)～27日(日)予定
●問い合わせ先/米子市観光協会 TEL 0859-37-2311

伯耆町

丸山春のふれあい祭り

平成20年5月4日(日) 午前10時～午後3時
●問い合わせ先/大山ガーテンプレイス TEL 0859-39-8111

江府町

毛無山登山道開き祭り

平成20年4月29日(祝)
●問い合わせ先/江府町役場 TEL 0859-75-2211

近代土木遺産をたずねて

日野川流域の近代土木遺産① 「日野橋」

近代土木遺産とは、幕末以降に西洋の近代土木技術が導入されてから、第二次世界大戦以前までに造られた土木施設のうち、現存されているものをいいます。全国で約2,800件、鳥取県西部圏域では15ヶ所、日野川流域



では現在8ヶ所が確認されています。先人達の仕事の価値に敬意を払うとともに文化的価値や親しみをもって将来の川づくりや地域づくりに歴史的な土木施設を活用することを考えてみてはどうでしょうか。

国登録有形文化財である「日野橋」は全長約370メートル、昭和4年(1929年)に曲弦式(きょくげんしき)6連ワーレントラス(構造物の骨組の一形式)橋として完成しました。コンクリート造りの橋脚にリベット接合した鋼材を曲線形のデザインを基調に組み上げ、橋の両端には花崗岩(かこうがん)切石積(きりいしづみ)の親柱を立てています。「日野橋」は、道路橋・トラス橋としては県内最大で最古のものです。昭和43年(1968年)、「日野橋」のすぐ下流に「新日野橋」が完成しました。これ以降、「旧日野橋」と呼ばれ、平成7年(1995年)老朽化に伴って車両の通行が禁止となり、歩行者・二輪車専用の橋として使われることとなります。平成12年(2000年)10月に発生した鳥取県西部地震で路面に段差が生じて通行止めとなりましたが、復活を望む市民の声を受け、現在は全面修復も終わり平成19年(2007年)に約6年半ぶりに開通しました。

編集後記

今号から「近代土木遺産をたずねて」というコーナーを始めました。土木遺産の歴史等を知り、学ぶことにより今一度、その存在の意義や大切さについて考える良い機会になればと思います。また、紹介して欲しい土木遺産がありましたら事務局までご連絡下さい。それでは今後ともよろしくお願いいたします。

T・K

「川」について、意見、質問、要望、何でもええけ、便りごしない。待ちちょうけんね。

あなたのところを

Get Heart

No.40
2008.4

発行●日野川への想いを語る会
編集事務局●国土交通省日野川河川事務所
〒689-3537 米子市古豊千678 TEL(0859)27-5484

ホームページ <http://www.cgr.mlit.go.jp/hinogawa>